

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0392100012
法人名	医療法人 徳政堂
事業所名	グループホーム ゆい
所在地	岩手県岩手郡岩手町大字江刈内6-8-9 (電 話) 0195-61-1511

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1		
訪問調査日	平成21年2月12日	評価確定日	3月19日

【情報提供票より】(21年 1月16日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤	人, 常勤換算 7 人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,900 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり	950 円	

(4)利用者の概要(1月 16日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低 78 歳	最高 90 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	佐渡医院 三宅歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

いわて沼宮内駅から北へ徒歩で約5分、岩手町の中心商店街に向う道筋に消防署に隣接した、落ちついた木造建築の建物がグループホームゆいである。地域の町内会、商工振興会は行事等を通じてホームに対し非常に協力的で交流も頻繁で、また近隣との関係も雪かきや声かけなどやっていただける状況にある。ゆいは医療法人徳政堂の事業所の一つで、医療連携が充実していることが大きな特徴である。そのような中で、職員は今後に向けて前向きに取り組んでおり、同業グループホーム間の訪問と受け入れ研修などを行いサービスの質の向上に鋭意努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
重点項目①	前回の外部評価における話し合いの中から、取り組むべきものとして、理念の見直し、保管棚の検討、夜間想定避難訓練などが浮かびあがってきたので、改善計画シートを作成し期間を設定して取り組んできた。ほぼ取り組み目標に到達している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目③	自己評価の意義を全職員で学習し、職員各自が評価項目に記入したものを持ち寄り、ミーティングを経て、ホーム全体の評価としてまとめた。したがって、全職員が評価の内容を共有し、それを活かす取り組みをしている。
重点項目④	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月ごとに開催している運営推進会議の委員に地域から町内会長、2名の民生委員、それに商工振興会長と比較的多様なメンバーが入っているため、多角的視点からの意見、助言が出るようである。特に地域交流や行事に関わる協力はホームにとっては心強いものがある。会議内容は主にホームからの現状報告とそれに対する質疑と意見があり、前述の地域行事の祭りへの参加や七夕祭りへの参加など具現化している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ゆいの場合、利用者の家族が頻繁に訪れていることは、入居者面会簿への記名の多さからも推察できる。したがって家族と職員が直接顔を合わせる機会も多く、家族の意見を聞くことが出来るし、日常生活の報告も家族が訪問された時に直接行っているほか、2ヶ月に1回の写真中心の広報を配布している。他に意見箱の設置や年1回の家族アンケートでも意見・要望を求めている。要望等は即反映している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	愛宕下町内会に加入し、日常の中で地域との連携が密にできるように努めているが、利用者が直接参加可能でない地域活動もあるので、それらは大目に見ていただき、祭りとか七夕などに参加させていただいたり、「ゆい」便りの配布などをすることで地域の理解も得られており、交流も深まり、近隣の人々からの声かけや除雪等も手伝ってくださるようになっている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	同一法人内のグループホーム「きらら」と同じ理念と、ゆい独自の目標を職員みんなで話し合って設定している。地域との関わりについては、「きらら」との共通理念の中で、「施設外の皆さんとの交流を大切にします。」と表している。		「施設外の皆さん…。」に地域も含めたとらえ方をしており、概念的には理解できる。ただ、地域密着型のあり方を考えたとき、「地域」という文言が理念の中に記されていたほうが、より強調的ではないだろうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内3ヶ所に掲示、ミーティング時や申し送り時に確認しあいながら共有を図ってよりよい支援ができるように毎日努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	愛宕下町内会にも加入しており、地域からの運営推進会議委員からのアドバイスなどもあって、祭りやセタのかざりつけなど地域行事に参加させていただくと共に、地域からの協力も得られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は評価のあり方を考えながら改善シートを作成し、職員全員で自己評価票に記入する前にガイドブックを読んで確認する中で、自己評価票に各職員が記入、それをホーム全体の評価に結びつけた上で、全職員が共有し取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域から委員として町内会長、民生委員2人、商工振興会長などの参加があり、比較的多様である。2ヶ月ごとの開催であり、ホームからの状況報告と対する質疑・意見など活発な様子がうかがえる。委員からの助言として、地域行事への参加、防災時の連絡網の作成などがあり、具体的に取り組みを行った。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームの現状についての話し合いは町の担当や福祉課主催の研修会でできた。諸連絡事項については、こちらから出向いて担当者と接する機会は持っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者9名中8名は町内、1名は隣町の葛巻で、比較的面会が多く、その様子は入居者面会簿の記名からもわかる。家族への報告は面会時にその都度直接行くと共に、2ヶ月に1回、写真にコメントをつけた広報「グループホームゆい」を送っている。また、必要に応じて電話連絡をする。金銭・管理等は出納簿を直接見ていただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時、意見箱の設置、年1回の家族アンケートなどで家族の意見苦情等を求める工夫をしている。出された意見等については、法人全体の会議で報告、ゆいの中での話し合いで運営の中に反映させている。例えば、利用者の食事メニューと食事量の家族への報告などである。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は極力少なくすることとしている。職員が代わる場合は、交替する前にマンツーマン的な対応に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ゆいの年間スケジュールで、研修についてその主題と期日も示されており、職員にも周知されている。法人内及び外部の研修も段階に応じ職員が研修に参加できる体制にある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県グループホーム協会第2ブロック内交流研修として滝沢村、雫石町、八幡平市などの近隣市町村のグループホームとの間で訪問及び受入研修を実施している。法人内の「きらら」との交流を深めながら支援の仕方、記録の仕方など、お互い良い点と改善点など視点を変えながら交流と研修に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者本人と家族に見学に来訪いただき、茶飲み話をしながらホームの雰囲気に馴染みをもつようにすると共に、ホームからも家庭に出向いて触れ合うようにしている。また、入居後も可能な限り面会を多くしていただく。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に過ごす中で、人生の先輩として経験してきたことを話題にしながら、例えば、畑仕事や料理の仕方など共通の話し合いをし、お互いに気脈を通じさせつつ、学んだり、支えあうようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に共に行動しながら、利用者一人ひとりの言動から、その思いや意向を察知、把握するように努めており、利用者一人ひとりの思いや意向をスタッフが共有しながら、本人本位の支援ができるように留意している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人や家族の意向と関係者の意見なども参考にしながら、全職員で計画に対する意見を出し合いそれらを介護計画に反映させており、計画作成後は家族にも確認いただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヶ月に1回の見直しのモニタリングと毎月のミーティングの中でも介護計画について全職員で検討をしており、常に利用者の変化を見逃さないよう注意をしながら、必要に応じて家族や関係者とも話し合い現状に即した見直しをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望で精神科、眼科への通院を支援したり、自宅の畑に行ってみたくとか、同一法人のグループホーム「きらら」を訪問するなど、利用者や家族の要望に応えるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	大部分の利用者は、医療法人徳政堂の佐渡医院をかかりつけ医としている。ゆいは月2回の医師の往診と週2回の訪問看護を受けている。利用者の通院は職員が支援している。かかりつけ医とは密接な連携がとれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制に関する指針を基に、本人と家族の意向を尊重した対応をすることを職員が共有してきているが、今後のミーティングでも確認に努めて行きたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	前回の外部評価では、記録物等の保管棚に扉が無いため、扉を付けたほうが良いと助言を受け、法人本部に伺った結果、扉のついた保管棚が完成、現在は記録物はそこに保管し個人情報確保されるようにしている。利用者一人ひとりの尊厳に関わるプライバシーについても全職員で研修しながら支援に当たっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活において大きなスケジュールはホームとして持っており、それに沿った生活になっているが、最も優先されるのは、利用者一人ひとりのペースに合わせた生活であって個別性のある支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備をして、食事をとっており、後片付けもほとんどの利用者が行っていた。週3回ぐらいは好みの食材購入に、利用者也交替で出かけており、誕生会など節々には食事に変化をつけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	水曜日を除き毎日入浴できるようにしている。時間は14時から17時ぐらいに設定しているが、利用者の希望を優先的に考えている。体調によって部分浴、清拭等の支援をするが、入浴したくない支援者には「着がえをしましょう」とか言葉がけをし、入浴に気が向くようにする中で清潔が保てるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの今までの経験が活かされるようにしている。女性の場合、主婦業であったことを活かして食事の準備、とりわけ色々な食材の調理、食後の片付け、また畑での活動、中には自宅の畑に行き軽農作業を行う利用者もあり、その支援をしている。地域行事や同級会への参加などもあった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩には日常的に出かけている。利用者本人の希望によって買い物、美容室へ、或いは自宅を含め希望する場所に行ったり、外食、ドライブなどの他に戸外での地域行事への参加などの外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は夜間のみである。事務室は利用者の様子をさりげなく見守れる位置にあると共に人の出入りは小鳥のさえずり音のセンサーで感知するようになっている。外出要求には職員の同行で最後まで対応する。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	防災避難訓練実施要項があり、非常通報連絡網を備え、これには職員のみならず運営推進委員も含まれている。隣接している消防署及び近隣の住民の方々にも協力をお願いしている。毎月避難訓練を行っており、夜間想定での避難訓練も実施し、日中の訓練や救命救急の訓練や研修会にも取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人の栄養士から年4回、食事のカロリー計算をしてもらうと共に、栄養摂取の状況や水分確保についてはチェック表に記録とチェックをし、法人の看護師の助言を得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	杉材の表面に節が点在模様で表れた腰板と太い柱や梁など木造建築のあたたか味を感じさせると共に、採光も良く、壁面には絵や風景写真、利用者の作品、季節の花など適度に飾りつけられており五感に働きかけている。くつろぎの空間にはソファが置かれ、たたみの間も備えられ、共用空間の中にも独自に過ごせる場が設定されている。食堂、浴室、トイレ等々、清潔に保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族で居室を居心地良くするため、馴染みの物を持ち込んだり、家族写真を貼ったりと各自が工夫をしている。また、ホーム側としても、それぞれの居室づくりのアドバイスと協力に努めている。		